

氏名	徳 毛 誠 雄
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 855 号
学位授与の日付	昭和52年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	人工弁置換術後の抗凝固療法に関する臨床的研究
論文審査委員	教授 田中早苗 教授 木村郁郎 教授 小坂二度見

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

人工弁置換症例に対して施行された抗凝血薬療法について検討し、その意義の評価と、血小板機能抑制剤を併用して、血小板機能の面から至適投与量を求めるべく検討した。

抗凝血薬として warfarin を、血小板機能抑制剤としては dipyridamole を使用した。

大動脈弁置換 (AVR)、僧帽弁置換 (MVR) 術後の抗凝固療法施行例の検討から、AVR においては、warfarin と dipyridamole 併用投与群、各単独投与群、非投与群の間に塞栓発生率の有意差は認めない。MVR においては併用群の塞栓死亡率が非投与群と比較して有意に抑制された。

血小板機能抑制剤の検討

- (1) AVR 後の血小板粘着能は非投与時で亢進しておらず、dipyridamole 150 ~ 450mg/日 投与でも正常対照群以下に抑制出来なかった。凝集能は非投与時亢進なく、300mg/日 投与で凝集能抑制をみた。
- (2) MVR 後の血小板粘着能は亢進しており、dipyridamole 225 mg/日 で正常域まで抑制されるが、450 mg/日 まで増量しても正常対照群以下に抑制出来なかった。凝集能も亢進しており (最大凝集に達するまでの時間の短縮)、375mg/日 投与で正常域まで抑制され、450mg/日 投与で、正常対照群より有意に抑制された。

以上の結果より、(1)AVR においては warfarin の投与の必要はなく、dipyridamole 300 mg/日の投与が望ましく、(2)MVR においては warfarin と共に dipyridamole の 450mg/日 の併用が、抗血栓療法として望ましいと考えられた。

論文審査の結果の要旨

人工弁置換術後の抗凝固療法に関する臨床的研究である。従来、抗凝固療法としては主として抗凝固剤の投与が行われていたが、本研究者は血小板機能抑制剤を併用することの有効性を検討し、その至適使用量を求めた点において価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。